



## 「第13回 日本介護支援専門員協会 全国大会 in 四国（徳島県開催）」参加報告

特別養護老人ホームつどい 関口 将史

8月31日から9月1日の2日間、徳島県徳島市の「あわぎんホール」にて、第13回となる全国大会が開催されました。「つながり、ささえ愛、広がる未来～新時代の幕開けは四国から～」をテーマに、全国各地から定員の800名近くに上る参加者が集まり、令和最初の大会に相応しい盛り上がりとなりました。

(1日目)

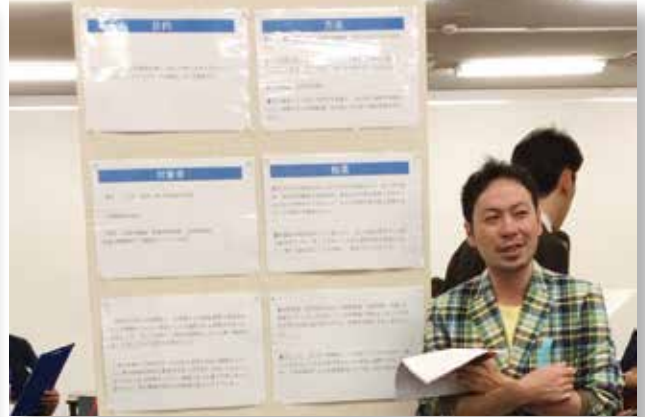
開会式後、「介護保険と地域づくり」と題して厚生労働省老健局局长 大島一博氏による基調講演から始まり、厚労省のHPからもダウンロードできる「これからの地域づくり戦略」について説明がありました。続いて、日本医師会常任理事 江澤和彦氏による記念講演「地域包括ケアシステムの構築について～高齢者の尊厳の保持と自立支援を考える～」をテーマに、今の現状とこれからの時代に求められる私たちの役割について学びました。その後、日本介護支援専門員協会会長 柴口里則氏より協会の活動報告があり、1日目の最後はシンポジウム「新時代の介護支援専門員のあり方を自ら問う～介護支援専門員の未来像～」をテーマに四国各県の代表4名が、それぞれの立場から考える未来像について発表がありました。終了後、別会場に移動しての懇親会では、徳島名物や阿波おどりを堪能しながら、全国のケアマネジャーの方々と交流を深めることができました。

(2日目)

5つの会場に分かれ、分科会が開催されました。各分科会ではそれぞれのテーマに沿った事例や調査結果等の報告、発表がありました。その中でも第1分科会では、「在宅医療に伴う自己決定・意思決定支援を考える」をテーマに、群馬県介護支援専門員協会の理事でもある新井薫氏の発表もあり、「終末期における意思決定支援とターミナルケアマネジメント加算について」と題して、参加者の多くの方々から質問や関心が集まりました。分科会後、産業医科大学医療部公衆衛生学教授の松田晋哉氏による「医療と介護の融合の必要性や地域包括ケアデザインについて」と題しての教育講演を拝聴させていただき、盛大な大会となった2日間は幕を閉じました。各地のケアマネジャーとの意見交換や交流も含め、大変貴重な体験となりました。次回は北関東ブロック3県合同での開催です。開催地は栃木県宇都宮市となりますが、多くの皆様で参加し、北関東を盛り上げていきましょう。

# 日本介護支援専門員協会全国大会報告

医療法人 井上病院 居宅介護支援事業所 太陽くん 飯嶋 寛



8月31日～9月1日 日本介護支援専門員協会全国大会in徳島に参加しました。

ターミナル期の方の事例を通し「本人の思いを叶えるために」ケアマネジャーが果たすべき役割について考察した報告をしました。

前回（石川）同様に発表スタイルがポスターセッションだったため自分自身としては納得できない気持ちもありましたが、この日この瞬間のためにしっかりと準備して事例と向き合った自信がありました。

実際の発表では伝えたいことが多くなり過ぎ、時間内で終わらせる事ができなかったのが、今後の反省点として残りましたが、他県の方から「とても良かったです」と声をかけていただき、達成感と充実感を得る事ができ、嬉しい気持ちになりました。発表のスタイルはどうか、全国大会に向けた努力や伝える事をあきらめない気持ちは無駄ではなかったと強く思いました。

事例と向き合う中で、ケアマネジャーの必要性や重要性を自分達がしっかりと認識し伝える責任があるのではないかとそんな気持ちを抱くようにもなりました。

専門職として関わったことで利用者の生活を守ることができ、意思決定を支援することができればケアマネジャーとしての価値は確かに存在していると私は思います。

全国大会で発表したいと思った大きな目的は、ケアマネジャーとして存在する自分自身の価値を証明し伝えるためでした。

今回も分科会で発表できなかったことを考えると課題や改善すべき部分があるのだと痛感していますが、しっかりと利用者の支援を行いケアマネジメントの価値と向き合うことで大きく成長できると信じています。また、これからも全国大会への参加や事例発表を続ける気持ちがあれば着実にステップアップしていくことができると確信しました。

皆さんも利用者支援の中で感じていることや伝えたい思いがあるのではないですか？

その思いを自分の中だけで終わらせず伝えましょう。全国の仲間の前で発表できるチャンスが目の前に広がっています。是非一緒に全国大会に参加し発表しましょう!!

他県の仲間と交流できる貴重な体験もありますよ。人の繋がりはお金では買えない貴重な財産です。来年は群馬からたくさんの仲間と一緒に参加できることを楽しみにしています。

## 「第14回一般社団法人日本介護支援専門員協会 2020全国大会 inとちぎ」大会紹介

伊勢崎市地域包括支援センター東 中島 麻衣子

次年度（2020年）に第14回日本介護支援専門員協会の全国大会が群馬県・栃木県・茨城県の北関東三県合同の開催となり、開催地が栃木県宇都宮市で決定しております。記念すべきオリンピックイヤーに、そして、介護保険制度がスタートして20年目を迎える節目となる大会になります。開催に向けて日本協会北関東ブロック（群馬県・栃木県・茨城県）では、実行委員会を立ち上げ、検討を重ねながら準備を進めております。その活動の一環として、今年度の徳島県で開催されました全国大会において、次年度（2020年）の開催に向けたプロモーションビデオの上映や周知用Tシャツを着ての広報など、次期開催県のブースを設置して頂き、「来年度とちぎ大会に来てください！お待ちしております！」とお声掛けをしながらPR活動をしてまいりました。

日本介護支援専門員協会における全国大会は、日本全国の各地で、またそれぞれの職域や地域で、私たちと同じ介護支援専門員がどのように活躍しているか、その実践を相互に学び、さまざまな課題を共に考える場として、そして、たくさんの同志との出会いの場としても、とても良い機会となります。今年度開催されました全国大会では、800人を超える参加があり、懇親会におきましても300人規模の参加状況で、途中のアトラクションなどにおいては大変盛り上がり、熱気が高まりました。

次年度のとちぎ大会におけるテーマは「のびる技・むすぶ想い・ひらく明日～二十歳の介護保険 支え合うことの価値を問い直そう～」となっております。利用者一人ひとりの想い、家族の想い、地域との途切れのないつながりによって、皆がそれぞれにとって幸せな明日を迎えることができるように、私たち介護支援専門員が今一度立ち止まって考えてみる機会になります。「原点回帰」をキーワードに介護保険が二十歳を迎える今、支え合うことの「価値」を改めて問い直していく大会になります。開催地が隣県になりますので、アクセスも良く、参加しやすいと思います。群馬県介護支援専門員協会におきましても、多数の参加、協力により、大会を盛り上げていきたいと考えております。皆さんにも、これを機に日本介護支援専門員協会に入会して頂き、全国の介護支援専門員の仲間と、ケアマネジメントの質の向上や専門性、社会的に求められている役割、在り方、存在意義など共に学び、つながり合う喜びを感じていただきたいと思っております。



# 第16回ケアマネジメント群馬フォーラム in 西毛のお知らせ

副大会長 松沢 斉

フォーラムの開催要項、参加申し込み関係書類は、すでにお手元に届いていますでしょうか？私のつたない文章を読むより、開催要項をご覧頂き、その充実ぶり以外を予想させない内容をご確認の上、なるべく早くお申し込みください。今回の大会はフォーラム史上初めて、「お楽しみ抽選会」という企画を用意しています。これは参加者に申し込み順で付与される参加証の受付番号で抽選を行い、当選者には豪華賞品がプレゼントされるというものです。また会場の「ホテル磯辺ガーデン」様の粋な計らいによりまして、フォーラム参加者であれば誰でもフォーラム終了後に、無料で磯部ガーデンの大浴場を満喫することが出来ます。県内外のケアマネジャーが一堂に会して共に学び、交流を図り、情報交換をすることは例年通りですが、今年はそんなオマケというか付録というか付加価値がついていますので、最初に強調してお伝えしておきます。

付加価値よりも大切な本体の企画は、午前中に「平成で生まれ育った介護・令和で夢語る」と題して、群馬県医師会長でもある須藤英仁大会長の基調講演、朝の受付時に3会場のうち一つを選んで参加していただくランチョンセミナーを経て、午後は6つに分かれた分科会です。受付順に定員まで締め切りますので当日は早めのお越しを！

- 1：スキルアップ研修「話し合いの進め方とゴールの設定の仕方」メイン講師の大石先生は講義を聴いているだけで勝手にコーチングになってしまいます。不思議体験をぜひ！
- 2：講演「笑顔を引き出すポジティブケアマネジメント」メイン講師の内田先生は専門研修でご存じの方は多いと思いますが、何度聞いても良いものは良いですよ！
- 3：笑顔の事例検討会 群馬県方式 居宅版・・・ご存じ「元祖群馬方式」を今回は実践経験豊富な中沢副会長の味付けでどうぞ！
- 4：笑顔の事例検討会 群馬県方式 施設版・・・施設ケアマネ向けの研修が少ないことをお嘆きの方にこそぜひ参加してほしいです。こちらもお経験豊富な須田テストで！
- 5：ACP研修「もしばなゲーム」メイン講師：菅野圭一 「聞いたことはある」でもやったことはないしどんなものか想像もイマイチ。まずは「知る」「触れる」からがおすすめ。
- 6：スキルアップ研修「フレイルの捉え方とその対応について」篠原智行先生（健康福祉大）の前職は某病院のリハ室勤務。知ってる気がするフレイルをちゃんと分かってほしい方へ。

実行委員たちはそれぞれの分担に分かれて奮闘努力の真っ最中。何のために本業でもないのに頑張ってるかと言えば、ケアマネジャーの仲間たちに「参加して良かった～」と感じてほしいから。今回は非会員の参加費が例年より高いです。きっと来年も再来年もそうです。会員さんのおトク感は大変、非会員さんも当日入会で会員同様のおトク感が得られますよ。

最後についてみたいですが、11月下旬の磯部は紅葉がやばそうな予感が！

## 報酬改定の対応は大丈夫ですか？

2019年10月より実施の、消費税増税に合わせた介護報酬及び区分支給限度基準額の改定内容が3月28日に官報告示されたことは、皆様もご承知のことと思います。診療報酬改定は通常2年に1度、介護報酬改定は3年に1度のタイミングで行われますので、本来であれば、医療の次の定期改定は2020年度、介護の次の改定は2021年度に行われる予定となっています。

今回のように消費税の税率が変わる場合、医療や介護の事業運営に必要な設備・備品、食材料費等の仕入れの際に消費税を支払いますから、当然2%分の支出が増えることとなります。しかし、保険診療や介護サービスの大半は非課税扱いのため、サービスを提供しても利用者さんから消費税をいただくことが出来ない仕組みであり、増税分はすべて「持ち出し」になってしまうのです。

そこで医療や介護の保険サービスを行っている事業者の負担を補填するために、消費税増税に合わせて診療報酬、介護報酬を臨時で改定することが今回の中身となります。もちろん、消費税増税分の補てんですから、医療や介護サービス行為そのものの評価が変わるわけではありません。今回の場合は、区分支給限度基準額と各介護報酬単位が見直されています。

### 居宅介護支援の基本報酬

	改正前		改正後	
居宅介護支援費（Ⅰ）	要介護2以下	1053 単位	要介護2以下	1057 単位
	要介護3以上	1368 単位	要介護3以上	1373 単位
居宅介護支援費（Ⅱ）	要介護2以下	527 単位	要介護2以下	529 単位
	要介護3以上	684 単位	要介護3以上	686 単位
居宅介護支援費（Ⅲ）	要介護2以下	316 単位	要介護2以下	317 単位
	要介護3以上	410 単位	要介護3以上	411 単位
介護予防支援費	430 単位		431 単位	

(2019年10月から適用)

(厚労省の発表を基に作成)

上記報酬早見表にあるようにわずかですが報酬単位が上がっています。ちなみに地域区分及び1単位の単価には変更ありません。

消費税10%が確定し、自分たちの事業所で算定する金額が、ケアプラン作成ソフトのバージョンアップ情報に反映されたことを確認し、10月以降の月間計画を作成しましょう。

また、管理者さんは事前に消費税が10%になった場合の費用の概ねの増額予測や10月以降の支出報告（備品やガソリン代など）、報酬改定によって算定する金額の増額予測や月間実績の改訂前後の分析をしておくとい良いでしょう。同じ居宅介護支援サービスを提供し続けていても、社会の動きによって収支が動くこともあります。自分たちでコントロールできるものではありませんが、収入が限られている居宅介護支援事業所だからこそ、リスクマネジメントとして状況を知っておくことは大切です。

実施直前の9/18に発出された厚労省通知vol.740通知には、今回の改定が臨時的・特例的なものであることを踏まえ、「利用者負担額の改定に同意した旨の署名・捺印は必ずしも要しない」と明記。「説明を行った日時・方法・対象者は明確に記録しておくこと」とありました。

対応例：抜粋

「利用者負担額改定表を紙で配付する等を行ったうえで、利用者、またはその家族へ説明し、理解を得る。その場合、利用者負担額の改定に同意した旨の署名・捺印は必ずしも要しないが、各介護事業所は以上の説明を行った日時・方法・対象者を明確に記録し残しておくこと」

今後も、不定期で発信される情報に目を光らせ、適切な対応を行っていきましょう。

ぬまたとね医療・介護連携相談室 岡島 真実

# 理事会・委員会報告

## 理事会

会長 大澤 誠

日本協会の全国大会（徳島）が8月末に行われ、来年は北関東ブロックの宇都宮で開催のため3県合同でPRを行うため、群馬からは松沢副会長ら6名が参加。

ケアプラン点検支援アドバイザー派遣について、マニュアルを作成中。会費ペイ運用に向けて、決済のテストを実施。

指定居宅介護支援事業所の管理者の資格要件の変更に係るアンケート結果概要が8月27日の理事会終了後、県介護高齢課 島田課長よりあった。

「県内の約750ある事業所のうち680事業所よりご回答があり、管理者が主任ケアマネジャーであるとの事業所が約350。残りは、来年までに研修を受講するという事業所、求人募集を図る事業所、未定か廃止という事業所もある。」とのことであった。

来年度の総会が5月30日（土）に決まった。

## 総務財政委員会

総務財政委員長 坂井 崇

「会員の利便性を図るための会費徴収方法の追加について」 日頃から、当協会の活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

これまで当協会費の納入につきまして、郵便局の振込用紙により、お振込み頂く方法をお願いしてきましたが、協会員の皆様の利便性向上のため、この度、クレジットカードによる決済が追加で可能となりましたのでご案内させていただきます。日頃の業務でお忙しい中、郵便局まで出向くご負担を削減するとともに一度ご登録いただければ毎年の手続きも不要となります。手続きに関する詳細は協会ホームページをご確認いただき、スマートフォン等から手続きをお願いできればと存じます。また、継続会員のみならず、新規で入会を希望される方に、積極的にお声がけいただきご活用いただくと幸いです。尚、これまで通り振込用紙での会費納入も問題なく可能ですので宜しくお願い致します。

## 学術研修委員会

学術研修委員長 菅野 圭一

今年度の活動計画について、三つの柱（主任ケアマネジャー法定外研修、専門研修フォローアップ、施設ケアマネジャー対象）をお伝えしましたが、早速10月9日に主任ケアマネ法定外研修対象の研修会を企画しました。場所は水上で、テーマは「ファシリテーションスキルアップ」です。コンセプトを、「前橋市や高崎市（中央？）から離れた地域の方々に参加しやすいように」としています。今回は北部ですが、今後西部（吾妻方面）、南部（藤岡方面）、東部（館林方面）での開催を計画（ファシリテーションだけでなく、もしバナゲームも）しておりますので、皆さんお楽しみに。

## 広報情報委員会

広報情報委員長 松本 勝美

ケアマネ群馬117号を発行しました。今回は日本介護支援専門員協会全国大会（徳島大会）の様子を会員の皆様にご紹介いたしました。来年の全国大会は北関東三県（群馬・栃木・茨城）が主催して宇都宮市で開催となりますので、来年に向けてのイメージ作りに役立てて頂ければ幸いです。来年は多くの皆様に全国大会に参加して頂き、ケアマネ群馬の全国大会特集号を皆様の原稿でいっぱいにしてください。宜しくお願い致します。

## 支部情報

### 高崎・安中支部

「今の季節を教えてください。」と言われたら、間違いなく私は「夏」と答えるでしょう。9月になったとは言え、昼間は33度という残暑厳しい本日9月6日、19:00～並木苑において、第19回安中市医師会・碓氷安中ケアマネの会研修会・交流会が開催されました。例年通り、一部は研修会、2部は交流会という流れでした。研修会では「顔の見える関係作りが連携に与える影響について」～事例を通じた私の振り返り～というお題で事例発表を居宅介護支援事業所こかげの高野さんが行ってくれました。その後グループ内で①他職種との関わりで日頃感じていることについて②顔の見える関係作りについて③他職種との連携などについて、の3点についてそれぞれ意見を頂きました。グループは医師、施設ケアマネジャー、居宅ケアマネジャーと7人で構成され、様々な意見が出されました。「ケアマネジャーは利用者さんの生活はほとんどわからない。デイサービス利用時の事、自宅での事は職員さんやヘルパーさんに聞くのが一番早い。状況をいつも教えてもらえるよう、コミュニケーションをとることが大切。」「病院所属の居宅のケアマネジャーと、居宅単独のケアマネは医師との関わりで重さが違う。」「4月に他市から引っ越してきた。8月から現在の居宅で働いているが、安中市はサービス事業者がとても少ないと感じる。」「それぞれ組織だから、ケアマネジャー個人としての気持ちより職場の流れの中で仕事をしなくてはならない。」「介護保険制度の縛りの中で自分たちは仕事をしている。出来る事より出来ない事がたくさんある。その中で出来るだけその人に合ったプランを作成するのがとても難しい。」と様々な意見が出されました。皆さん、ヒートアップしオフレコにしたいような意見も出されました。日頃皆さんがとても大変な思いをされていることを実感しました。お題とは離れますが、ある医師から「あの患者さんとはキャデーさんとして働いていた時からの付き合いで、30年以上も経っている。高齢の人にはいろんな歴史があって、色々な話が聞いて自分も楽しい。今は認知症になってしまったけれど、悪い事ばかりじゃないよね。膝が痛い事や、辛い事や悲しいことも認知症になったことで和らいできたような気がする。」というご意見を頂きました。確かに皆さん、それぞれの人生を歩んでこられた方たちです。嘘か作り話もあるけれど、それも含めてその方の人生をとことん聞こうじゃありませんか。最後に、安中市の訪問介護の事業者さんが1件9月末で閉じてしまう事になりました。そうでなくても少ないヘルパー事業所がさらに減ってしまうのではないですか。在宅の基本はヘルパーさんです。そこの充実なしで、どうやって在宅生活の継続が出来るでしょうか。ヘルパーさんの確保にどうぞ行政も力を貸してください。



(居宅介護支援事業所 フレンズ 高橋 幸子)

### 渋川圏域支部

9月1日(日)10時から渋川地区医師会館で、VR認知症体験会があり出席しました。「VR認知症」は認知症ではない人が、バーチャルリアリティの技術を活用し、認知症の中核症状を体験するものです。当日はグループワークで多職種の方と一緒に体験しました。1話目は視空間認識の体験で、とても怖い思いをしました。大げさに言えば、一歩踏み出すことが、殺されるのではないかとまで感じたことです。2話目は見当識障害の体験で、電車から降りた場所がわからなく迷ってしまう話ですが、これこそよくある話で、このときの心細さは何ともいえないものでした。優しく本人の前から声をかけられることの有難みを実感しました。3話目はレビー小体型認知症で、幻視を体験することで混乱する環境において誰でも通常と違う行動を起こしてしまうと実感しました。

9月10日(火)18時50分から渋川地区医師会館で、介護職のために在宅医療講演会があり出席しました。「秋から冬にかけて流行する感染症」というテーマで渋川地区医師会から井口千春先生の講演を聴きました。秋から冬にかけて流行する感染症の予防と対策について学ぶことができ、今後活かせる内容でした。実際にサージカルマスクを付けて、正しいマスクの着脱を学びました。勘違いしていた処理方法を訂正できて良かったです。

(渋川市西部地域包括支援センター 高橋 敬子)

## 事務局だより

### 令和元年度会費の納入はお済みでしょうか 再度ご確認をよろしく願いたします。

会員の皆様には日頃より本会の運営に関しましてご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、令和元年度会費の納入はお済みでしょうか。

本会は会員の皆様の会費により運営いたしております。会費納入にご協力の程を、よろしく願いたします。

また、本会では会員の皆様に会報や研修会のご案内をお送りしております。これらのご案内は次号から会費を納入下さった方の方に限定させていただきます。

なお、これ以後は会費納入の確認ができ次第ご案内をお送りする予定です。また、ご不明なこと等がございましたら、事務局までご連絡ください。

一社) 群馬県介護支援専門員協会事務局

(群馬県社会福祉協議会 地域福祉課内)

TEL 027-255-6226 FAX 027-255-6173

事務担当：新井

## コラム

### 「その人らしく生きる」と「家族の気持ち」をふと考える

自由気ままに生きていた一人暮らしの叔母が、肝硬変の末期と診断された。何度も繰り返される「今夜が山です」慌てて駆けつける。息をつめて覚悟するが、その数日後には「〇〇のが食べたい」「喉が渴いた」と言う…意識が戻った？ そしてまた「今日明日もあり得ます」の連絡が…。

家族は覚悟を決めたり、胸を撫でおろしたり、を何度も繰り返す。「亡くなって欲しい訳じゃないんだよ?!でも、いつまでこんな事が続くんだろう…」付き添っていても見ている事しかできないもどかしさ、頻繁に駆けつける労力、気疲れが積もって行く。どうにもならない事だとわかってはいても、疲れと不安、当たり所のない想いが降り積もる。

それにしても、叔母の「自由気まま」さは、ある意味最期まで変わらないんだな…。昔から無邪気に周囲を振り回す人だった。今の状況は「らしい」と言えばらしいのかもしれない。何だか「その人らしく生きる」という事を考えさせられているように感じる。そして、本人を支える家族が支えられないと、その人らしくは生きられない、見守ってもらえない事を改めて教わっている様に感じる。

本人の想いと生き方、家族の想い、どちらも大切にやっぱり難しい。

(基礎資格：社会福祉主事 K)

## 編集 後記

最近ラジオを聴くのが習慣になっています。夜ふと目が覚めたり、眠れないときにラジコで聞き逃した番組を聴くことができ便利です。いつも聞いている番組にメッセージと曲のリクエストをしています。番組のパーソナリティは女優さんで7月9日とメールが読まれてビックリして同時に疲れが吹っ飛ばす気持ちになりました。「お互い頑張りましょう」という言葉に明日も頑張ろうと思いました。言葉の持つ力を感じました。温かい言葉をかけられる支援者になろうと思います。(T)